

令和4年2月 市長定例記者会見

令和4年2月1日(火)

午後1時30分 開始

【秘書広報課長補佐】 それでは、ただ今より令和4年2月市長定例記者会見を始めさせていただきます。

最初に、本日の会見の進行につきまして、お手元の次第のとおり、最初に市長の挨拶、その後、事業発表をいたします。質問につきましては事業発表についてからお願いしたいと思っておりますのでよろしくお願いたします。事業発表に係る質疑応答終了の後に、次第の3番目、フリーの質疑応答へと進行したいと思っております。

なお、ご質問の際は、お手数ですが、まず挙手をお願いいたします。そして、ご自席のマイクのスイッチを入れていただきまして、ご質問の後はお切りいただきますようお願い申し上げます。

終了は14時30分を予定しております。ご協力のほどよろしくお願いいたします。

それでは、市長、よろしくお願いいたします。

【市長】 それでは、2月定例記者会見、よろしくお願いいたします。

新型コロナウイルス感染症につきましては、新たな変異株、オミクロン株の影響により年末以降感染者数が増えています。

福井県の感染拡大警報が2月20日まで発令されておりますので、市内においても感染が継続していますことから、現在の施設利用制限2月4日までとなっておりますけれども、20日まで延長することにしましたので、お知らせいたします。

それから、中学校の部活動やスポーツ少年団などの活動自粛も2月20日までということとさせていただきます。皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

ワクチンの接種についてですけれども、現在3回目の追加接種を進めております。感染予防や重症化予防のために、できるだけ早めの接種ということをお願いしたいと思います。お送りする紙には8か月と書いてあるんですけれども、前倒しで6か月から接種可能となりましたので、早めの接種をお願いします。

また、ファイザー社とモデルナ社と2つがありますが、どちらのワクチンを用いても安全性には違いがないと報告されておりますので、ぜひ空いているほうで予約を取っていただきたいと思っております。

それから、おうちでお店ごはん、好評だったので再度実施をしております。3月15日までやっておりますけれども、いろんな人にお聞きしますと知らなかったという人もいらっしゃるの、できるだけ発信力を高めて皆さんに知っていただくようにしていきたいと思っております。

それから、楽天ショップ・オブ・ザ・イヤー2021受賞ということで、ふるさと納税賞、3自治体だそうですけれども、これを受賞いたしました。本当でしたら東京に行って会場で受賞するんですが、ウェブ上の受賞式ということになりました。

また、余座の踏切というのがありますが、国土交通大臣より、改良すべき踏切道として1月21日付で指定をいただきました。ちょうど小牧のかまぼこの前ぐらいにある

んですが、それに対して歩道が設置されるという方向で広げることができるようになります。並行在来線になってからの工事になると思いますが、一つ前に進んだなど感じております。

いろんな出来事がありますけれども、何とかこのオミクロン株を乗り越えて前に進んでいきたいと思っていますので、よろしく願いいたします。

【秘書広報課長補佐】 続きまして、事業発表をお願いいたします。

【市長】 事業発表項目は1項目でございます。

敦賀市知育・啓発施設名称及びロゴの発表についてということであります。

敦賀駅西地区におきまして整備を進めております知育・啓発施設の名称及びロゴを決定いたしましたので公表します。その名称は「TSURUGA BOOKS & COMMONS ちえなみき」であります。

以前にお示した写真も出ておりますが、この施設の名前が「ちえなみき」になりました。この施設を通しまして多くの本や人に出会うことで、多種多様な知恵を育み、一人一人が枝を伸ばして幹となって、設計コンセプトにありますような世界樹のように大きく成長してほしいと願いを込めてこの名称に決定いたしました。

昨年8月2日から9月10日まで募集をしておりましたが、ご応募いただきました多数の皆さまに改めて感謝を申し上げます。

以上でございます。

【秘書広報課長補佐】 それでは、ただいま発表いたしました項目につきましてご質問をお受けしたいと思います。最初に幹事社さんのほうからお願いいたします。

【記者】 今発表のあった「ちえなみき」ですけれども、名称や応募の状況等々を含めて、市長の所感をお聞かせください。

【市長】 「ちえなみき」という名前は、いい名前になったなというふうに思っています。知恵があって、並木があって先ほど言いましたように出会いもあってという形になるんだろうというふうに思います。

私の期待としますと、この中で、まずは市民の皆さんがここで集って、いろんな情報交換とか、珍しい本もたくさんありますので、そういう本を見ながら、もしくはソファーとか喫茶もありますので、豊かな時間を過ごしていただけたらと思っています。

また、よそから来られる方々につきましても、新幹線開業によって敦賀に訪れたときに少し時間があれば寄るということもありますし、また、「ちえなみき」が目標となって来ていただけたら非常にいいと思いますので、そういう場所になってほしいなと思っています。

下のほうにバリエーションがあるんですけども、一番左が桜の春ということで、それからこちらのほうはクリスマスツリーみたいな形になっていますので、そういうところも同じ場所ですけども、いろんな季節によって感じ方が違う、また見せ方が違うというところを期待しながら、にぎわいの場になっていけばいいなと思っています。

【秘書広報課長補佐】 ほかによろしいでしょうか。

〔なし〕

【秘書広報課長補佐】 それでは、各社にお伺いいたします。発表項目につきましてご質問がございましたら挙手のほうお願いいたします。

【記者】 今、「ちえなみき」の四季でいろいろ変わっていくというところでもう少し詳しく聞きたいんですけども、これは何かデジタル的なもので四季に合わせて毎回変わっていくみたいなそういったイメージか、もともとずっと置いてあるものといいますか、そこは今後どういう形になっていくかというのは決まっていますでしょうか。

【市長】 そこは指定管理者さんが決めたりするんだと思いますし、また部長のほうからも説明があるかもしれませんが、いろんなデザインの中で選んでいくときに、このデザインだとかこういうバリエーションができるなど。どんなものが中に入ってくるか分かりませんが、キャラクターとかが中に入ったりするかもしれませんが、そういうことも考えられるんじゃないかなということで、いいなと思いました。

部長のほうから、バリエーションについてありましたらお願いします。

【都市整備部長】 バリエーションにつきましては、その都度その都度、指定管理者のほうで行うイベントであったり、あるいはシーズンごとのキャンペーン展開等によって、このロゴをある程度変化させていきながら、一定ではなしにいろんな見せ方ができるなどということで今回バリエーションのほうをつくらせていただきました。それは供用開始いたしましたら様々なところで応用していきたいと思いますので、ご期待ください。

【記者】 ありがとうございます。

【秘書広報課長補佐】 ほかにいかがでしょうか。

それでは、次第の3番目、フリーの質疑応答へと移らせていただきます。

これも幹事社さんのほうからお願いいたします。

【記者】 コロナ関連で幾つか質問したいと思います。

まずはコロナの第6波というのが流行していて、オミクロン株が広がって、それが敦賀のほうにも影響が出ていて、感染者数も結構増えたりとかというふうな状況があるかと思えます。市長、まずはその状況をどういうふうに捉えていて、今後どういうふうに対応していくのいいかなと、その辺をまずはお聞かせください。

【市長】 感染症の発生につきましては、敦賀市では1月で177人と、去年の8月の142人を超えて最多となっていますので、非常に大きな数字です。これがピークなのかというところももう少し上がっていく可能性がありますから、非常に怖いなというふうに思っています。

その中で、私ども早め早めに対応していくというのが一つの方向性としてありました。コロナに感染したら、濃厚接触者だけでなくその次の人たちも検査しながら、そこで抑えていきたいというのがありましたけれども、今の発生状況で検査数が増加しております。また、そういう医療資源というのも限られていますので、なかなか止め切れなくなってきたなというところが正直なところです。

ですから、市民の皆さんの気持ちというのをもう一回奮い起こして頑張ってくださいとしかないのかなと。例えば今まででしたらPCR検査を受けて、早ければその日、次の日には大体分かったようなところがありましたけど、それはもう少し時間がかかっていますので、その間は何とか耐えてもらわないと、陽性かもしれませんし陰性かもしれませんし、その辺をしっかりと皆さんと気持ちを一緒にしてやっていくしかないなというふうに思っています。

【記者】 その影響が出ているところでいうと、結構10代以下というか、学校の生徒さん、児童さんというところもかかっている状況が敦賀市の中にも見られるかなというふうに思

います。休校の対応とかしているところもあったりということで、その辺りは、年度末に向けて学習の進度とか、その辺りというのはどういうふうに教育委員会としても対応していこうと思っていらっしゃいますでしょうか。

【市長】 学校の学習進度はかなり早めに動いていると聞いています。受験シーズンになってきていますので、その辺も見込んで対応しながらということをしていると思いますので、教育長のほうからお答えします。

【教育長】 休校中の学校のことをご心配いただいていることについてお答えさせていただきたいと思います。基本的に週29コマほどそれぞれの学校のほうで授業を展開しているんですけども、今現在のところ、そのコマ数については年間の中で文科省が定められたコマ数がございますので、その部分については、今市長がおっしゃられたように十分先をやっているというか、標準の時数は超えて勉強している部分があります。

あえて申しますと、今ちょうど受験期でございますので、それに向けて子供たちの学習にそごが出ないように、各学校のほうで、例えば休校明けのときに少し補足的な時間を設けて、それぞれの学校で対応するというふうなことで、各学校の校長先生方におかれては、保護者の方々にその辺のところを丁寧に説明しているというふうに私どもは聞いております。

授業の進度ということにつきましては、まず教科書をきちんと学習するというのもございますし、内容についてはそれぞれの学校のほうでクオリティーの高い授業というんですか、それぞれ工夫して漏れのないように対応している。こういうふうに我々は捉えております。

【記者】 あと、1人感染者が入るとすぐに広がってしまうという傾向もあるというか、これまでのデルタ株よりも感染力は強いために、学校での生活とか、あとは保育園とか幼稚園とかでの生活とか、そういうところでの距離感だと結構広がりやすいのかなというふうにも思うんですけども、先生方も結構大変な対応をされているのかなというふうに思うんですが、その辺りどういうふうにこれからも含めて、教育委員会としても学校への指導とか対応をしていくおつもりでしょうか。

【教育長】 その点については、ご承知のように、マスクの着用とか小まめな手洗い、それから換気ということが非常に重要だと聞いておりますので、基本的な感染症対策はそれぞれの学校で進めていただいております。

また、今ほどご指摘ありました異学年交流というんですか、そういうことについても、敦賀市内では全て小学校の場合、控えているということがございます。

また、部活動については1月25日の段階でそれぞれ自粛していただいておりますし、それぞれに学校の中での対応というのはやっている部分があります。

そこでなんですが、あえて申しますと、ご家庭のほうにご協力をいただいて、少しでも気になる、すなわち、ちょっと微熱があるとか体調が優れないとかというふうなご家庭につきましては、お休みをいただいて、家庭でゆっくり養生していただくとか、また病院のほうにお連れいただくとかというふうな措置をご家庭のほうには協力をいただいている部分がございます。未然防止というふうな観点から、今後もそのような呼びかけは進めたいなというふうに思っております。

【記者】 ありがとうございます。3回目のワクチン接種についてなんですけれども、65

歳以上は既に1月20日から始まっていて、2月はピークを迎えながら64歳以下の接種に向かっているという感じになっていくかなと思うんですけども、今の接種率とか予約状況とか、その辺をどういうふうに見ているかということと、あとは先ほど挨拶の中でもおっしゃられていたように、3回目にモデルナとファイザーのどちらを打つかという問題もあるかなと思うんですが、その辺も聞いてみると、やはりモデルナを避ける傾向というのが敦賀市の中でも見られるようにお聞きしているんですけども、その辺りというのはどういうふうに捉えていらっしゃるのでしょうか。

【市長】 予約状況については部長のほうから答えると思います。

モデルナとファイザーですけども、接種するのに経験があるほうが安心だというふうに皆さん思うんですかね。ですからどうしてもファイザーのほうに偏りがちになりますので、事あるごとに、どちらも同じですよということを言わないといけないと思っています。

私のところにも3回目の接種券が届きましたので、打てるタイミングでモデルナを打とうと思います。大丈夫だよと発信しないと、なかなか広がらないのかなと。特に高齢者についてはモデルナは全然大丈夫だと思っていますので、そういう発信をしていきたいなというふうに思います。

【福祉保健部長】 まず、今の3回目の接種率というところでございますが、接種が始まってからまだしばらくしかたっていないということもありまして、まだ4%ほどの状況でございます。

予約状況につきましては、2月の予約率が86%の予約状況でございますが、こちらは個別接種につきましては100%の予約状況というところで、集団接種のモデルナがまだ半数以上空いているような状況でございます。また3月の予約につきましては、全体で50%の予約率。ファイザーのほうはほとんど100%に近い95%の予約率ですけども、モデルナのほうは個別接種、集団接種ともに予約が少ない状況になっております。ただ、こちらにつきましても随時接種券を発送して予約を入れていただいているところですので、今後、ワクチンの種類にかかわらず早めの接種を勧奨していきたいなというふうに思っております。

以上でございます。

【秘書広報課長補佐】 ほかに幹事社さん、よろしいでしょうか。

〔なし〕

【秘書広報課長補佐】 それでは、各社にお伺いいたします。ご質問ございましたら挙手のほうをお願いいたします。

【記者】 まず、リラ・ポートが2年間の休業を経て再開に向けて準備を進めていると思うんですけども、待っていた市民の方も多いと思います。一方で、休業の間にコロナ禍でこれまでとは違った状況になっていると思うのですが、その再開に向けて市長のお考えをお聞かせください。

【市長】 本当にリラ・ポートの再開に向けましては、たくさんの待っていらっしゃる方がおられます。2年ぶりの再開となりますので、本当にお待たせしましたということなんですけれども、遅くなったということと風評被害があった中でのコロナということなので、かなり心配をしております。

ただ、指定管理者の選定に向けては、その分を見込んで指定管理料とかに織り込んでいきますので、指定管理者と一緒に力を合わせて少しずつにぎわいを取り戻していきたいと思

っています。当初はいろいろと手を入れなくてはいけない部分もありますし、そして周知も必要になってきますので、キックオフは大変だと思いますが、いずれいい流れになるように頑張っていきたいと思います。

【記者】 ありがとうございます。

次、別の話なんですけれども、先立ってドローン配送実証実験が愛発であって、市長も一緒にあの吹雪の中で視察なさっていたと思うんですけれども、一連の実験を視察されての感想と、そしてあと期待感というか、そういったものを教えていただけたらなと思います。

【市長】 実験に私も行かせていただいて、非常に行ってよかったなと思いますのは、やっぱり実機を見て、その機械を見て現実味を帯びるとするか、空想じゃなくて実際に飛んでいくんだなというのを感じました。

もう一つは、愛発の区民の皆さんたちが非常にそれに対して期待をしているし、自分も使いたいという思いがひしひしと伝わってきましたので、これをぜひ実証実験だけじゃなくて実際にやれるような形に持っていかなくてはいけないですし、ニーズはしっかりあるというふうに感じました。その中で、今年度でなくて次年度以降に向けてもそうですけれども、支援体制をしっかりと構築していきたいというふうに思っています。

愛発地区の皆さんが愛発モデルというのを非常に喜んでいらっしゃって、全国に愛発を知ってもらうのに、愛発モデルはぜひその名前にしてほしいということを感じておっしゃっているのを聞いております。

【記者】 加えてなんですけれども、例えば過疎の問題がいろいろあって、私が住んでいるところも過疎なのでそうなんですけれども、例えば、この間シーネットさんが発信されていたみたいに、1日に1本しかバスがないけれども、そこに人だけでなく物も載せてくるということをつらばバスの存続にもつながるであったりとか、あとは狭い道ですから、やはり陸送ではあの雪の中では難しいところにドローンが使えるとか、そういったいろんな課題解決につながると思うので、その辺について市長のお考えとかありませんでしょうか。

【市長】 そうですね。当日バスによる混載という話も少し出ていましたので、それも一つ魅力的だと思いますが、今、愛発地区でやろうとしているのはドローンの実装なので、まずはドローンの実装をやりたいというふうに思っています。

愛発地区につきましては、バスの路線の見直しのとときとかも何とか存続させなければと言っていて自分たちで回数券を買われたりとか、そういう危機意識も非常に高いところですので、ぜひやりたいなというのは強く思っています。

【記者】 ありがとうございます。

先日機構さんと、もんじゅのこれまでの知見をとということで、アメリカのテラパワーとの協力、覚書が結ばれたということがありました。ほかにも新たな原子力発電所を造るという動きがあったりとか、原子力活用に向けた動きというのは世界的な潮流というところがあるんですけれども、一方で参院選をにらんでなのか、日本では変わらず新增設、リプレースなどは明記しないような流れと聞いています。立地自治体の首長として、また全原協の会長として、政府そのほかへの働きかけなどはどのようにお考えでしょうか。

【市長】 東日本大震災から10年がたって、その次のエネ基でしっかりと新增設、リプレ

ースを示されなかったことに対しては非常に憤りを感じているんですけども、次の3年後に向けて何とか頑張っていけるんじゃないかという気持ちを持って取り組んでいます。

今おっしゃいましたように、世界の潮流が再生エネルギー、太陽光とか風力とかにプラスして原子力もCO₂フリーの中に入れていくということを各国々が取り入れ出しましたので、その辺をしっかりと世論に結びつけていけたらなと思っています。

ですから、フィンランドのグレタさん、彼女は原子力賛成も反対も言っていないけど、地球温暖化を何とか防ぐ方法を求めています。その中で原子力は有効だということを考えれば、そういう彼女の動きに賛同する、要は環境に対して意識の高い人たちも、原子力だけ反対ではなくて、当然賛成すべきだろうという意見になってくるんじゃないかというふうに思いますので、そういうことも含めて私どもの動きの中に入れていけたらなというふうに思っています。

【記者】 ありがとうございます。

【記者】 先ほどのドローン配送の中で、市長が次年度以降に向けて支援体制を構築したいとおっしゃっていたんですけども、具体的にはどのような取り組みをされるのでしょうか。

【市長】 今やりました実験というのは愛発の公民館から各地区に飛ばしたんですね。ですから基地となる場所をしっかりと設定しないとイケません。どこか近くのコンビニがあればいいんですけど、疋田のコンビニはなくなりましたので、じゃそれをどこにするのか、それがどういうふうにできていくのかということを支援していかなくてはイケませんし、また実際に配送していく上でいろんなハードルがあると思いますので、そういうところも含めて一緒に応援していきたい、支援していきたいと思っています。

【記者】 具体的に何か新年度予算へ盛り込むというようなイメージですか。

【市長】 まだ盛り込むまで詰まっています。

【秘書広報課長補佐】 ほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

[なし]

【秘書広報課長補佐】 それでは、これをもちまして2月の市長定例記者会見を終わらせていただきます。

ありがとうございました。

午後 1時 58分 終了